
〈寄稿〉

歩行訓練研究部の活動

神戸市立盲学校

渡辺 謙 根岸 寿 木下善雄 森 一成 浜田節子*

1 はじめに

本校には寄宿舎がなく、全員が自宅からの通学である。そして、ほとんどの生徒は、自力歩行で通学している。まだ自力歩行ができない児童・生徒も、それをめざして歩行訓練に励んでいる。そういう事情もあり、本校では歩行訓練に以前から力を注いできた。昭和55年以降6回にわたって日本ライトハウスの歩行指導者養成課程および教育関係者視覚障害リハビリテーション研修会に職員を派遣している。その修了者を中心に教育課程上の養護・訓練の一環としての歩行訓練を実施してきた。そして、平成4年度より修了者（歩行訓練担当者）が週に1回打ち合わせをする歩行訓練連絡会の活動を始めた。そして、平成6年度より校務分掌に位置づけられた歩行訓練研究部として活動している。

2 本校の歩行訓練

視覚障害児（者）にとって歩行能力（移動能力）の確立は、社会的自立をめざす上で重要な要素である。本校でも多くの養護・訓練のひとつの領域として、歩行訓練を実施している。時間割の上での養護・訓練としてはもちろん、時間割ではとりにくい生徒については早朝及び放課後や夏休みなどで特別指導としても行っている。

本校は全員が通学生ということで、小学部・中学部の歩行訓練では自力通学のための訓練が中心になる。また、小学部の低学年では、その準備段階とし

*わたなべゆづる ねぎしひさし きのしたよしお もりかずなり はまだせつこ 神戸市立盲学校
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-4-2 電話 078-360-1133 FAX 078-360-1136

ての基礎的な訓練をすることが多い。高等部では自力通学が可能になってからの応用歩行や、視力低下など視覚状態の変化にともなっての歩行指導をすることが多い。

自力通学に向けた歩行訓練に入る前の基礎的な訓練としては、屋内歩行（屋内の探索）・手引き歩行・方向の理解などの移動のための基礎的能力の中の知識の養成・白杖の基礎的技術などがある。これらの基礎的な訓練がほぼ終了した後に、通学訓練を開始する。通学訓練の最初は、学校から最寄り駅までを目的とする。最寄り駅はJR神戸駅、神戸高速鉄道の高速神戸駅、神戸市バスの神戸駅前バスターミナルなどである。いずれも視覚障害者用誘導ブロック（点字ブロック）がかなり敷設されており、主にそれをたどっての歩行となる。最寄り駅まで行けるようになったら、少しずつ生徒の家に近づいて練習することになる。ふつうは下校練習から始めることが多い。

基礎的な訓練としては、先にあげたように移動（歩行）のための基礎的な知識の養成、屋内歩行（屋内の探索）、手引き歩行、白杖の基礎的技術の養成などがある。

移動（歩行）のための基礎的な知識としては、身体各部を知ること（ボディーイメージ）、左右の理解、時計の文字盤の方向の理解、方角の理解、歩行環境の理解、交通ルールの理解などがある。移動には、自分のいる場所と行きたい場所の位置関係を理解することが大切である。そのためには、これらの知識が必要である。

屋内歩行は各部屋の探索から始まる（表1）。ドアから自分の席を見つけ、ロッカーの位置を知り、水道・ごみ箱やその他必要なものの位置関係を知ることから始まる。そして、教室内の様子を理解し、室内での自由な移動が可能となっていく。また、教室から他の部屋への移動の練習も早い時期に開始する練習の一つである。最寄りのトイレ、隣の部屋などから始まり、よく行く部屋を順次していく。どの順番でするかは、その児童にとっての必要度と技術的難易度などを考慮して実施していく。

手引き歩行は、最も安全性の高い歩行方法であり、歩行訓練の重要な練習の一つである。低学年では、手をつないで歩きながら歩行環境を説明していくこ

表1 小学部校内歩行カリキュラム例

	場 所
1	教室内（ドア↔席↔ロッカー）
2	教室↔トイレ
3	教室↔同じ階の部屋（同じ並び、伝い歩きだけ行ける）
4	教室↔同じ階の部屋（廊下を渡る、別の廊下を歩く）
5	教室↔他の階の部屋
6	校舎内で必要な各部屋間の移動

とが大切な練習になる。手の握り方では、指導者が児童の手を握っている状態から、児童が指導者の手を握っている状態への移行も一つのポイントとなる。

また、白杖を使った歩行練習としては、白杖を持っての手引き歩行、白杖を使っての環境認知（白杖を使って触ったものを当てる）、握り方・持ち方・振り方の練習、白杖を使った屋内歩行を初期の練習メニューとしている。

これらの基礎的な訓練は、通学訓練の開始とともに終了するものではない。通学訓練とも並行して、各児童・生徒に合わせて継続されていく。また、これらの訓練を支えるのは歩き続けるスタミナ、敏捷な身のこなし、手先の器用さなどの体力・運動能力である。

基礎的な訓練がほぼ終了した児童より通学訓練に入る。開始時期は、当然各児童・生徒により異なる。ただ、児童・生徒および保護者も中学部入学時には自力下校ができるようになってほしいという思いを持つ場合が多い。そこから逆に考えると小学部4、5年から下校練習を開始するのが望ましい。もちろん、児童の歩行能力、通学ルートの歩行環境や距離、家庭の状況などにより下校練習開始から終了までに要する期間は異なる。

最初は、白杖を使ったさまざまな歩行方法（タッチテクニック、スライド法、階段歩行、白杖による伝い歩きなど）をマスターした上で実際の通学路の練習に入る。ふつうは先に述べたように、学校から最寄り駅までの練習である。横断歩道まで、横断歩道の横断、地下街までというように短く区切って練習する。

道に迷ったり、危険な歩き方をしたり、本人が不安がったりするうちは、先に進まないで何度も練習する。区切られたポイントをクリアして何とかいけるようになったら、児童から少し離れて目的地まで1人で行かせる。そして、通行する人々に声をかけられたりしたときの考え方の練習、あるいは人に尋ねたいときの声のかけ方の練習を行う。

最寄り駅までつけるようになったら、交通機関の利用練習に入る。はじめは、駅やバスターミナルの様子を説明し、手引きをして触らせることなどを十分に行う。そして、安全に乗り降りができるために、乗車・降車の練習を何度も繰り返す。たいていは、交通機関の練習にかなりの時間がかかる。そして、降車駅より自宅までの練習をする。この練習が終了したら、学校より自宅までの全コースの練習を行う。そして、全コースの練習において、途中多少迷っても目的地に着ける、通行する人とも応対できる、基本的に安全な歩き方ができると判断した時点で、保護者に歩行の様子を見てもらい自力歩行の可否を判断してもらう。

自力下校が可能になった児童・生徒は、次に登校練習に入る。下校練習同様に部分的に始める。登校の場合は、指導時間帯も一つのポイントになる。はじめは、授業時間や放課後に行う。そして、全行程が自力可能になったら実際の登校時間帯に移って練習を行う。

自力登下校が可能になった児童生徒については、さまざまな交通機関の経験や繁華街での買い物などの応用歩行を生徒の実態に応じて行っている。

近年は阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）の影響により、交通事情・歩行環境が激変した。それにともなう通学指導（通学路の危険回避、必要により通学路の変更）を行ったのはもちろんの事、生徒に「震災体験を晴眼者と共有する」目的の時間もとった。すなわち地震による被災でひび割れたり、でこぼこになったりした道路や変形した建造物、全半壊した建物の撤去により更地になった所などを手足や白杖を使って感じとらせることを行った。その後は震災復興にともなう歩行環境の変化への対応が歩行訓練の一つのポイントになった。

はじめに述べたように本校の歩行訓練は、自力通学のための訓練が中心であ

る。しかし、それを支えるのは基礎的な訓練であり、さらにそれを支える体力・運動能力である。基礎的な訓練を怠れば、効果的な通学訓練は行えないし、体力・運動能力がなければその基礎的な訓練も満足にできない。すなわち歩行能力の向上には養護・訓練の時間の学習だけでなく、学校生活・家庭生活全体の中でいろいろな運動をしたり、いろいろな所を歩いたり、いろいろな物に触れたりすることが大切である。保護者や児童生徒は「歩行訓練＝養・訓の時間の通学訓練（白杖を使った屋外歩行）」と思いがちなので、基礎的な訓練やそれを支える体力・運動能力を高めることを生活全体で行う重要性を指導者は常に知らせる必要がある。

それとともに視覚障害児（者）の歩行能力には個人差が大きいので、競争意識をもったり、いたずらに焦ったりすることなくその時に必要な課題に取り組めばよいことも伝えなければならない。その課題に向かって児童・生徒そして、保護者・職員が協力して取り組むことにより、効果的な歩行訓練ができると考えている。

3 研究部の活動内容

研究部の活動内容は、歩行訓練担当者同士の報告・連絡・相談などの話し合い（歩行訓練担当者会）と学校内外での歩行訓練関係の研修会の計画と実施、部内での研修（歩行訓練等の視覚障害リハビリテーションに関するいろいろな情報交換、実技研修）等が活動内容である。

歩行訓練担当者会としての内容は指導状況の報告、通学路・校内の危険個所などの情報交換、指導方法等の相談、最寄り駅等の交通機関の情報交換である。これにより校内での歩行訓練の指導技術・指導方法をかなり共通理解することができるようになった。また、歩行訓練を受けている生徒の情報をひんぱんに交換しているため、担当がかわっても多くの情報を知ったうえで引き継ぐことができるようになった。また、校内の危険個所、学校周辺の道路環境、各生徒の通学路や交通機関の状況も常に話し合うことができた。それにより歩行訓練指導上の注意すべき点についてもよりはやく対応することができた。

また、学校内外の歩行訓練関係の研修を担当者が協力して計画・実施するこ

とができた。校内で毎年行っている歩行訓練研究部の関係する研修は、本校へ着任した職員対象の新着任者研修が2回（手引きで1回、屋内単独歩行等で1回）と任意研修（職員の中の希望者を対象に行う研修）が1～2回である。新着任者研修では、主に1学期に点字・弱視教育・重複障害・理療など盲学校教育の特色ある内容を入門講座的研修会として行っている。そのうちの2回を歩行訓練研究部で担当している。最初に最も必要度の高い手引きをアイマスク体験実技を中心に行っている。次に生徒の校内歩行を理解する目的で、校内での単独歩行をやはりアイマスク体験実技を中心に行っている。任意研修では白杖操作の基礎、白杖を使った屋外単独歩行、白杖を使った電車乗降、シミュレーションレンズによる弱視状態での歩行体験、モーワットセンサーを使った歩行、手引きの復習、歩行訓練関係のビデオ上映、歩行訓練の状況報告などを実施してきた。

また、最近の傾向として校内以外の研修増加（盲学校の見学者への手引き指導、一般校での福祉教育の一環としての手引き指導など）、教育相談での歩行に関する相談の増加などである。今後も、このような他の学校や団体と関係した活動が増えると思われる。

4 月別の活動内容

最近2年間の月別の活動内容は以下の通りである。ただし歩行訓練指導上の情報交換（報告・連絡・相談）は毎月隨時行っているので、ここでは除いている。

平成8年度 歩行訓練研究部会の月別活動内容

<4月>

- ・ メンバー紹介、年間活動計画、予算（必要品購入）計画
- ・ 会の運営の仕方について（司会・記録順等）
- ・ 歩行訓練対象児童生徒の把握／指導状況報告
- ・ 新着任者研修（手引き）の指導計画

- ・ 「サウンドウォーク」への協力活動の報告
- ・ 神戸市障害者スポーツリーダー養成講習会の指導報告

<5月>

- ・ 関西歩行訓練研究会（日本ライトハウス）と視覚障害リハビリテーション研究発表大会（大阪）の参加について
- ・ 新着任者研修（手引き）の指導計画と実施

<6月>

- ・ 関西歩行訓練研究会への参加と報告
- ・ 日常生活訓練研究部との連携について検討
- ・ モーワットセンサーの使用についての検討
- ・ 北五葉小学校研修の実施報告
- ・ TV番組ドキュメント「歩行訓練士」について
- ・ 視覚障害リハビリテーション研究発表大会への参加

<7月>

- ・ 視覚障害リハビリテーション研究発表大会の報告
- ・ ライオン製品のカタログについて
- ・ 施設関係者（歩行訓練士）交流会への参加
 - * 県内の施設に勤務する歩行訓練士の大半が初めて集まった。今後、「兵庫県歩行訓練士協会」として、不定期ながら継続的に会合を持つことになる。
- ・ スタッフ研修（モーワットセンサーを使用した歩行）の実施
 - * モーワットセンサー指導員養成講習会（日本ライトハウス）を受けた職員の指導のもとに、歩行訓練研究部員がアイマスク実技体験の研修を受ける。運動場でのポール回避や校舎内での障害物回避など。
- ・ 夏休みの特別歩行指導の計画と実施
 - * 時間をたっぷりととった通学指導、ふだん歩行訓練の授業のない理療科

生徒への指導、教育相談を受けている生徒への訪問指導など

<8月>

- ・ 夏休みの特別歩行指導の実施（7月と同じ）

<9月>

- ・ 夏休みの特別歩行指導についての報告（教育相談での訪問指導も含む）
- ・ 夏休み中の研修会（ローヴィジョン疑似体験セミナーなど）についての報告
- ・ モーワットセンサー用ポール、白杖、反射テープの入荷について
- ・ 新着任者研修（屋内歩行）の計画と実施
- ・ 近畿盲学校教育研究大会（以下、近盲研と略す）小学部会での発表についての報告
- ・ 全日本盲学校教育研究大会（以下、全日盲研と略す）での発表についての検討
- ・ TV番組ドキュメンタリー／日本点描「ブラインドゴルフ世界大会」について
- ・ 兵庫県歩行訓練士協会への参加について

<10月>

- ・ 大阪教育大学助教授山本利和氏からの協力依頼について
- ・ 兵庫県歩行訓練士協会定例会への参加
- ・ 福祉事務所を通した教育相談について

<11月>

- ・ 高速神戸駅への申し入れ文書についての検討
- ・ 山本利和氏への協力活動の報告
- ・ 関西歩行訓練研究会（京都府立盲学校）への参加と報告
- ・ 校内危険個所の検討
- ・ 福祉乗車証の再発行について

- ・ 全日盲研、視覚障害リハビリテーション協会の研修会について
- ・ 兵庫県歩行訓練士協会定例会（会場 本校）の開催
- ・ 任意研修の内容と日程について

<12月>

- ・ 兵庫県歩行訓練士協会定例会の参加報告
- ・ 任意研修の計画
- ・ 研修誌の原稿について
- ・ 全日盲研の発表原稿について
- ・ しあわせの村の施設改善計画への協力

<1月>

- ・ 任意研修の実施（モーワットセンサー、白杖歩行）
 - * 研修希望職員を対象に実施する。モーワットセンサーパスと白杖コースに分かれて行う。白杖コースは、さらに初心者コース、基礎（通学路）歩行コース、応用コースの3コースで行う。
- ・ 校内の安全歩行の検討
- ・ 阪神大震災被災者相談会（ハビー・神戸市視力障害者福祉協会）への参加検討

<2月>

- ・ 近盲研養訓部会の参加報告
- ・ 任意研修の状況報告
- ・ 兵庫県歩行訓練士協会の参加報告
- ・ 甲陽園小学校児童への見学時の手引き指導
 - * 体育館にて本校児童とともに視覚障害児（者）の歩行についての話、アイマスクをつけての手引き体験など
- ・ 来年度歩行訓練予定者のリストアップ
- ・ 阪神大震災被災者相談会の参加報告

- ・ 湊小学校児童への見学時の手引き指導
 - * 体育館にて視覚障害児（者）の安全な歩行のために気をつけてほしいことの話、アイマスクをつけての手引き体験など
- ・ 校内の安全歩行の検討

< 3月 >

- ・ 卒業生等の特別指導についての検討
 - * 卒業生の中で必要性があり、希望があれば進学先への通学、就職先への通勤の指導を行う。
 - ・ 今年度の活動反省と来年度についての検討
-

平成9年度 歩行訓練研究部会の月別活動内容

< 4月 >

- ・ メンバー紹介、年間活動計画、予算（必要品購入）計画
- ・ 会の運営の仕方について（場所、時刻、司会・記録等）
- ・ 歩行訓練対象児童生徒の把握／指導状況報告
- ・ 新着任者研修（手引き）の指導計画
- ・ 関西視覚障害リハビリテーション研究会の参加についての検討
- ・ 兵庫県歩行訓練士協会例会（国立神戸視力障害センター）への参加と報告

< 5月 >

- ・ 新着任者研修（手引き）の実施と報告
- ・ 大阪教育大学山本助教授のアメリカ視察報告会の参加報告
- ・ 全日盲研について
- ・ 新着任者研修（屋内単独歩行）の指導計画
- ・ 教育相談歩行訓練の報告
- ・ 関西視覚障害リハビリテーション研究会（日本ライトハウス）への参加

<6月>

- ・ JR須磨駅プラットホームの点字ブロックについて
- ・ 新着任者研修（屋内単独歩行）の実施と報告
- ・ JR神戸駅改札口自動化について
- ・ 視覚障害教育研修（教育相談部主催）について
- ・ 関西視覚障害リハビリテーション研究会の参加報告
- ・ 歩行訓練中の安全確保（防犯グッズ等）について
- ・ 任意研修の計画

<7月>

- ・ 兵庫県歩行訓練士協会例会（関西盲人ホーム）への参加と報告
- ・ 視覚障害リハビリテーション研究発表大会の参加報告
- ・ 全日盲研での発表についての打ち合わせ
- ・ 夏休みの特別歩行指導の計画と実施

<8月>

- ・ 夏休みの特別歩行指導の実施
- ・ 全日盲研での発表

<9月>

- ・ 夏休みの特別歩行指導の報告
- ・ 兵庫県歩行訓練士協会例会（川西）への参加と報告
- ・ 任意研修（白杖歩行、電車乗降、モーワットセンサー）の計画と実施と報告
- ・ JR須磨駅のプラットホームの点字ブロックについて
- ・ 全体研修で全日盲研の報告
- ・ 視覚障害教育研究会の計画

<10月>

- ・ 視覚障害教育研修会の計画

- ・ 購入した消耗品の紹介
- ・ 福祉教育への協力依頼についての検討
- ・ 関西視覚障害リハビリテーション研究会（関西盲人ホーム）への参加
- ・ JR神戸駅の自動改札化について

<11月>

- ・ 関西視覚障害リハビリテーション研究会の参加報告
- ・ 桜ヶ丘小学校でのアイマスク実技体験の指導報告
- ・ 視覚障害教育研修会の実施
 - * 希望する学校教職員が対象の研修会。今年度は、アイマスクによる視覚障害疑似体験歩行を行った。
- ・ 今後の歩行訓練研究部の課題について
- ・ 兵庫県歩行訓練士協会例会の計画と案内状発送

<12月>

- ・ 視覚障害研修会の報告
- ・ 兵庫県歩行訓練士協会（ハーバーランド）への参加と報告
- ・ 湊小学校の視覚障害疑似体験指導依頼についての検討
- ・ 教育関係者視覚障害リハビリテーション研修会（日本ライトハウス養成部）の参加報告

<1月>

- ・ 湊小学校での視覚障害疑似体験の計画と実施
 - * 5年生児童と希望する保護者を対象にアイマスクやタオルを使っての視覚障害疑似体験を実施する。単独歩行と手引きを行う。
- ・ 地下鉄神戸駅の工事計画についての報告
- ・ 研修誌原稿について
- ・ 白杖の選び方について

<2月>

- ・ 湊小学校での視覚障害疑似体験の報告
- ・ 神戸市障害者スポーツ指導員講習会での指導報告
- ・ 携帯電話について
- ・ 研修誌の内容検討
- ・ フォローアップ研修会（日本ライトハウス養成部）の参加報告
- ・ 白杖と手袋について

<3月>

- ・ 卒業生特別指導の検討
- ・ 今年度の反省と来年度に向けての検討

5 今後の課題

児童・生徒数はやや減少傾向にある本校だが、教育相談や福祉教育等で歩行訓練の必要性はむしろ増加してきている。普通校に通う視覚障害児に対する歩行訓練等の指導を現在行っているが、これからもその必要性はなくなることはないだろう。また、近年福祉教育への関心が高まり、視覚障害疑似体験の指導を要請されることが増えてきている。そして、教育課程の改訂により総合学習の中の福祉教育が、小学校・中学校での教育課程の中で位置づけられようとしている。今後、視覚障害疑似体験等の指導要請はさらに増えると思われる。ボランティア団体、地域の団体、医療関係者との交流や指導依頼も増えてきている。そこでこれからは、それに対応できる数のスタッフを安定的に確保する必要がある。また、学校以外の他の福祉施設等との情報交換も今まで以上に必要になってくると思われる。

6 まとめ

本校の児童・生徒にとって重要な歩行訓練を今後も充実した体制のもとで実施したいと考えている。また、教育相談や福祉教育への協力など幅広い視点にたった活動にも取り組んでいかなければならない。これからも学校内外での連携を深めながら、歩行訓練研究部の活動を続けていきたい。

参考文献

- 木下和夫 1989 歩行訓練. こうべ市盲89, 84-90
- 神戸市教育委員会 1993 神戸市立盲学校及び養護学校教育課程編成の手引
- 神戸市盲歩行訓練連絡会 1993 歩行訓練連絡会活動報告93. こうべ市盲93, 51-70
- 神戸市盲歩行訓練研究部 1995 歩行訓練研究部. こうべ市盲95 15-21
- 神戸市盲歩行訓練研究部 1996 活動報告96 校内を安全に歩くために 小学部の歩行訓練. こうべ市盲96, 6-16
- 芝田裕一編著 1990 視覚障害者の社会適応訓練. 日本ライトハウス
- 芝田裕一編著 1996 視覚障害者の社会適応訓練第3版. 日本ライトハウス
- 文部省 1985 歩行指導の手引. 慶應通信

◆ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1
 TEL075-581-0296 FAX075-581-0589
 振替01020-0-8076 宅配可 値格は税別

◆好評発売中◆

盲導犬誕生
わたしは盲導犬イエラ

◆著者からのメッセージ
◆あなたは盲導犬のこと知っていますか?

◆この本は、私が目が見えなくなつたことを受けとめてきた心の軌跡と、視覚障害の母親としての子育ての記録です。つたない私の体験が本となり、みなさんに読んでいただけることを、心から感謝しております。

◆23歳の夏、海へのドライブの帰り、カーブのむこうから飛び込んできた対向車。彼女はその一瞬に光を失つた――

◆自分の生きる道を探すこと、生涯の伴侶との出会い、そして2人の息子の子育て……そんな当たり前的人生を歩いてきた彼女を導いてきた光とはなんだったのか。

◆中途失明の闇のなかで、はじめて向き合つた自分自身を見つめて、再び光を見出すまでの心の軌跡。

◆二三六頁・美装
◆四六版・一八〇〇円

◆音しずく
◆竹下八千代

◆中途失明女性の築いた新しい人生、その後の音景色